

参加報告書

Research Day 2014 Faculty of Dentistry University of Toronto

4th grade graduate student Mayumi Ogita
Department of Periodontology
Tokyo Medical and Dental University

【スケジュール】

2月10日 成田発、カナダ・トロント着

2月11日 Research Day 2014 参加

Poster Presentation

2月12日 AM Dr. Benjamin A. Alman's Lab

(Peter Gilgan Centre for Research and Learning)

研究施設および周辺施設見学(佐藤信吾先生ご案内の下)、

佐藤信吾先生と研究についてディスカッション

ラボミーティング参加

PM Dr. Morris F. Manolson's Lab 見学

研究内容に関する Presentation 及び Discussion

2月13日トロント発

2月14日成田着

【参加による成果】

今回、2014年2月11日にThe University of Toronto Faculty of Dentistryにて開催されたResearch DayにG-COE-AISSとして参加させて頂いたため、これを報告する。本会はトロント大学歯学部 of 学部学生、大学院生、ポスドクおよび研究者らの研究発表を主としており、構成としては特別講演、参加者らのポスター発表、優秀大学院生、学部生の口頭発表でなっていた。

本会は、Dr. Morris ManolsonによるOpening Remarksに始まり、University of Texas Health Science Center, Endodontics講座のKenneth Hargreaves教授による特別講演が行われた。疼痛カプサイシン受容体TRPV1とそのアンタゴニストAMG517による疼痛制御を主題とした研究発表であり、私達歯科医師には馴染みの深い歯髄炎の疼痛から、更に医科の関連施設との連携をとり熱傷による

疼痛、ガンによる疼痛制御まで応用研究が進められていっている旨を知り、研究の広がりの可能性を視野に入れ研究を進めて行きたいと感じた。

その後、立食形式の昼食後、ポスターセッションとなった。私以外に外国人大学院生のポスター発表はイスラエルから2名であり、例年日本人大学院生が参加していると聞かされていただけに、より一層緊張感が増した。更にレーザーを応用した研究はあまり広くされている分野ではないので質問者は来るのであろうか少々不安に思っていたが、幸いにも多くの方々から興味を持って頂き質問およびsuggestionを頂いた。これまで幾つかの研究発表の機会に恵まれてきたが、その中でも一番温かく、そして勉強になった。ポスター番号の偶数と奇数とに分けてポスターセッションが行われていたので、自分の発表を終えた後に各発表者と質疑応答をさせて頂いたが、同じ立場の大学院生の熱心な説明に引き込まれた。私のセッションでもそうであったが、学生、指導者間での質疑応答はどこにおいても”忌憚なく”行われておりこうして研究への知識が深められていくと同時に発表することにも慣れる環境にあるのだと思った。

Research Day翌日、野田教授のご高配によりトロント大学関連研究施設への訪問が叶った。まず午前中にDr. Benjamin Alman's Labへ訪問させて頂いた。こちらのラボにはGCOEのOBである佐藤信吾先生がポスドクとして在籍されており、佐藤先生のご厚意により研究室やSick Kids病院および周辺のトロント大学関連を見学と、私の研究についてのディスカッションをさせて頂いた。その後、ラボミーティングにも参加させて頂いた。残念ながら、記録的な大寒波の影響により当初の予定より早めに移動を余儀なくされていたDr. Almanとは面会が叶わなかったが、移動先の空港からネット回線を利用してテレビ電話にてラボミーティングに参加するという珍しい光景を目の当たりにした。そのような発想があったとは、と大変素晴らしいと思った。ラボミーティングでは2人発表者があり、1人は論文抄録、1人は自身の研究進捗状況報告(Progress Meeting)であった。論文抄録においては、ラボメンバーが次々と論文のデータに対しての質問を発表者に投げかけ、大変活発に意見交換がなされていた。Progress Meetingにおいては、ラボのテクニシャンの方も積極的に意見を発言されていたのが印象的であった。また、研究の手技的なことについて日本国内の大学がかつて同様な研究を行っていたと話題に出され、そちらの方へ直接相談を行おう、と話に上がっていたことから、遠く離れた地であっても刻一刻と研究は世界レベルで動いているのだと実感させられた。午後はDr. Morris Manolson's Labへ訪問

をさせて頂いた。Dr. Irina Voronovに研究室の案内をして頂いた後、研究室において皆様の前で研究発表をさせて頂いた。大変緊張し、言いたいことがなかなか英語で出でこず、ディスカッションには苦勞をしてしまったがそれでも熱心に耳を傾けて頂き、更には自身の研究の将来展望まで相談させて頂き具体的なアドバイスを沢山頂いた。Dr. Manolsonから最後に、『あなたの研究は面白い、きっと良い研究になっていくよ』との言葉を頂き今後の研究活動への大いなる励みとなった。

これまで、GCOEから海外の大学派遣の参加募集をされているのを幾度となく見て興味はあるものの、研究についての知識や英語でのコミュニケーションに自信が無く躊躇をし続けてきていたが、この度お話を頂き、思い切って参加し想像以上に多くのことが得られるいい機会となった。『経験は最高の師』ということわざがあるが、この経験を胸に今後も研究活動に励んでいきたいと思った。

最後にこのような貴重な経験をさせて下さった、野田先生、森田先生、和泉先生を始めとしたGCOE事業推進担当の先生方、職員の方々、トロントにおいて私を受け入れて下さった先生方に心より感謝の意を表したいと思う。

【現地での写真】

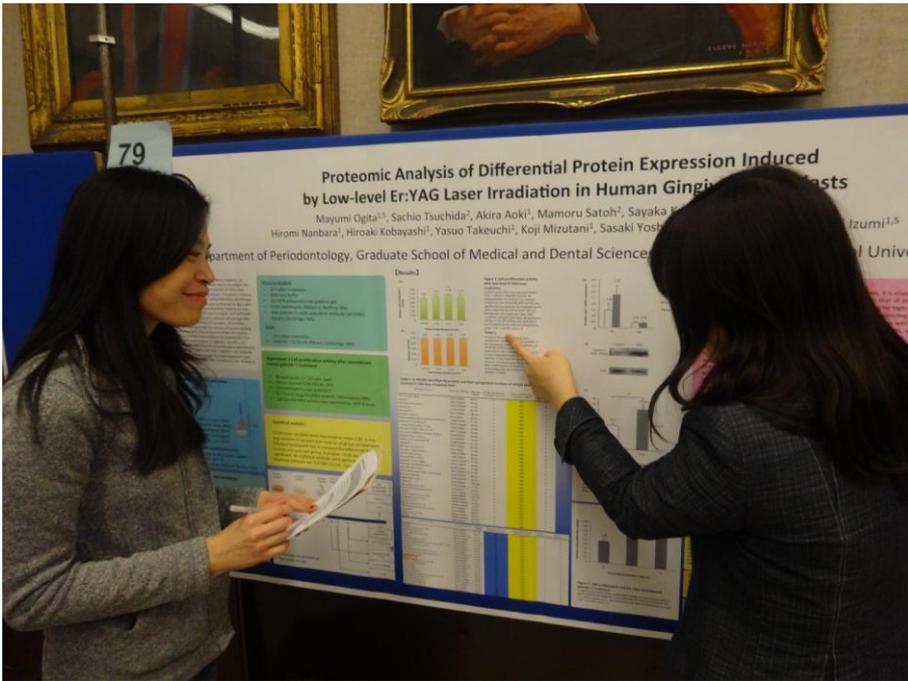


Research

Day 講演会の様子



ポスターセッション会場



ポスターセッションの様子



Dr. Manolson、Dr. Voronov との discussion の様子



Dr. Benjamin Alman's Lab が所在する Peter Gilgan Centre for Research and Learning 外観と内部の様子